

<大会テーマ>

子どもの育ちと家庭を支える学校 ～ソーシャルワークの機能に着目して～

<会 場>

法政大学 多摩キャンパス
東京都町田市相原町4342

<日 程>

2016年8月27日(土)・28日(日)

目次

- [全国大会開催のお知らせ・あいさつ](#)
- [大会プログラム](#)
- [大会案内](#)
- [口頭発表応募方法・留意事項](#)
- [NEWS TOPIC](#)
- [事務局だより](#)

あいさつ

日本学校ソーシャルワーク学会の第11回全国大会を法政大学多摩キャンパスで行うこととなりました。大会に向けて、関東を中心としたスクールソーシャルワーカーや研究者が集まり準備を進めております。大会テーマは「子どもの育ちと家庭を支える学校～ソーシャルワークの機能に着目して～」です。

近年、子どもの貧困対策法やチーム学校など、様々な側面から学校やスクールソーシャルワーカーの役割に期待が寄せられています。一方、「子ども」や「家庭」に関する議論を見ると、その評価や方向性は混沌としています。スクールソーシャルワーカーへの注目が高まる今日こそ、支援対象をきちんと理解したうえでの支援構築が求められています。

本大会では、子どもと子どもの育ちについて、その家庭がおかれた環境や社会の動向も含めて検討し、そこに学校やスクールソーシャルワークが、どのような機能をはたすべきなのかについて議論を深めたいと思います。

本キャンパスは都心から離れておりますが、東京都下と思えないほどの緑豊かな環境に恵まれています。この落ち着いた場所で、上記のテーマについて二日間じっくりと考える時間をお過ごしいただきたいと思います。みなさまのご参加をスタッフ一同、お待ちしております。

第11回全国大会 大会実行委員長
日本学校ソーシャルワーク学会 代表理事
岩田 美香（法政大学教授）

1. 大会プログラム

Time	SUMMARY
9:30	受付開始
9:50 ～ 11:50	<p>【公開研修】</p> <p>「教育行政におけるスクールソーシャルワーカー活用事業の意義」 講師：中野澄（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官） コーディネーター：佐々木千里（京都市教育委員会等SSWスーパーバイザー）</p> <p>【受講資格】特になし（非会員参加可） 【定員】140名（先着順） 【受講料】1,000円</p> <p><研修のねらい></p> <p>「いじめ」や「子どもの貧困」、「チーム学校」等様々な切り口で、スクールソーシャルワーカーの活用が注目されており、各自治体においても急速に「スクールソーシャルワーカー事業」が進められています。事業を効果的に展開させるためには、様々な施策が打ち出される教育行政全体において、または大きなビジョンの中で、この事業がどのような意味や目的をもっているのか、スクールソーシャルワーカーと教育委員会が共通理解する必要があるでしょう。今回は、まず教育行政の立場から「スクールソーシャルワーカー事業」を語っていただき、「子どもの最善の利益」の実現のために教育と学校ソーシャルワークがめざすべき方向性と、それぞれの役割を学びなおす機会にしたいと思います。</p> <p>【専門研修】</p> <p>「教師・保護者・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの連携によるチーム学校～学校心理学の視点から～」 講師：石隈利紀（東京成徳大学教授、日本学校心理学会会長） コーディネーター：大塚美和子（大阪府教育委員会チーフSSW）</p> <p>【受講資格】学会員（非会員参加不可） 【定員】60名（先着順） 【受講料】1,000円</p> <p><研修のねらい></p> <p>スクールソーシャルワーカーは、活動において多様な支援者との連携や協働を必要としますが、その際それぞれの支援者の機能や役割がより効果的に発揮されることを想定しなくてはなりません。そのためには各領域の支援者の考え方や手法を理解することが不可欠です。今回は、学校心理学での「チーム援助」における、教師や保護者、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの連携のあり方をお話いただきます。そのうえで、スクールソーシャルワーカーがめざすチーム支援と、どのような重なりがあり、どのような違いがあるのかを参加者とともに学び思考し、関係者それぞれが活かされる連携を考えてみたいと思います。</p>
<p><事前研修申し込みの留意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 申し込み及び口座振込の方法は、すべて本要項の「2. 大会案内」の手順に従ってください。 公開研修及び専門研修は、ともに定員に達した段階で募集を終了いたします。期限内に申し込みをされた方でも受講できない場合があります。大会事務局または学会HPで募集状況をご確認の上、申し込みを行ってください。 	

■ 本大会（1日目）

Time	SUMMARY
12:30	受付開始
13:00	開会式
13:10 ～ 14:10	<p>基調講演 「チーム学校の動向とスクールソーシャルワークへの期待」 講師：坪田知広（文部科学省初等中等教育局児童生徒課課長）</p>
14:25 ～ 16:50	<p>鼎談 「子どもの育ちと家庭を支える学校～スクールソーシャルワークの展望～」 鼎談者 田中哲（東京都小児総合医療センター 副院長、児童精神科医） 野田正人（立命館大学教授） 岩田美香（法政大学教授）</p>
17:00 ～ 17:30	年次総会※会員の皆様は、ふるってご出席ください
17:45	送迎バスにて移動※情報交換会参加者のみ
18:30 ～	<p>情報交換会《定員:120名》（参加者は送迎バスにて移動） ※定員になり次第、申込を締め切ります。なお、当日申込はできません。</p>

Time	SUMMARY
9 : 00	受付開始
9 : 30 ～ 12 : 30	<p>口頭発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発表は1演題あたり、発表時間20分、質疑応答15分、計35分となります。 ● 発表申込締切 6月10日（金）必着 <p>※発表希望者は後記の「3. 口頭発表応募方法・留意事項」を参照いただき、申請事項に漏れのないよう応募ください。</p>
	昼休憩
13 : 30 ～ 15:30	<p>課題研究分科会</p> <p>【重要】課題別研究の事前申込に関するご案内【重要】</p> <p>各分科会の定員は60名です。参加申し込み順に第1希望の分科会へと振り分けていきますが、ご希望の分科会が定員に達した場合には、大会事務局で第2・第3希望の分科会へ振り分けさせていただきますことでもありますので予めご了承ください。詳しい内容は、HPまたは第2報でご確認ください。</p> <p>第1分科会</p> <p>「学校ソーシャルワーク実践におけるコンサルテーションの工夫～効果的なアウトプットを考える～」 コーディネーター：佐々木千里（京都市教育委員会等SSWスーパーバイザー）</p> <p><趣旨></p> <p>コンサルテーションは、「つながり」の構築を支援するスクールソーシャルワーカーにとって、日常的かつ重要な支援ですが、相手に伝えたいものを、適時適切に伝えるための伝達力や表現力を必要とするため、そこに悩むスクールソーシャルワーカーも少なくありません。このような状況をふまえ、今回は伝達や表現など、いわゆる「アウトプット」に着目し、学校ソーシャルワーク、学校カウンセリング等異なる立場の登壇者の発表をもとに、効果的なアウトプットによるコンサルテーションのあり方を参加者とともに考えていく機会としたいと思います。</p> <p>第2分科会</p> <p>「少年事件から考える必要な仕組み～検証報告そしてイギリスの制度から～」 コーディネーター：山野則子（大阪府立大学教授）</p> <p><趣旨></p> <p>2015年2月に起きた悲慘な少年事件の初公判が1年後であるこの2月に開かれました。少年の家族や学校のことなど考えさせられる課題がたくさん見えました。その第三者委員をされ、検証報告を書かれた先生をパネラーにお迎えし、私達は何を考えるべきなのか、検討したいと思います。そのうえで、ではどうすればよかったのか、個人の力量の問題ではなく、二度と起こさないように、制度、仕組みとして何を作っていくべきか、教育委員会、SSW、学校関係者、それぞれがこれからどうしていけばいいのか、イギリスの学校における制度の紹介、それがイギリスでどうして成り立ったのか、ご報告を受けて、日本におけるチーム学校や内閣府の学校プラットフォームのあり様や対策の実際など国の議論も踏まえて考えたいと思います。</p> <p>第3分科会</p> <p>「スクールソーシャルワーク研究における研究方法～新たな知見と気づき～」 コーディネーター：大崎広行（目白大学教授）</p> <p><趣旨></p> <p>日本学校ソーシャルワーク学会が設立されて、昨年度10周年を迎えました。この間、スクールソーシャルワーク（以下、SSW）研究は、かつての諸外国のSSWの紹介だけでなく、調査研究や実践研究を中心に研究が進められてきています。このことは、2008年の国による「スクールソーシャルワーカー活用事業」の導入とともに、SSWに関する調査研究や実践研究を行う環境が整ってきたことが一因として挙げられます。今後、こうした研究の動きを、より活性化し質の高い研究へと深化させていくためには、また、歴史研究（SSW実践と教育福祉実践との関わり）や行政研究（SSW実践と行政施策との関わり）など、多様な研究領域に視野を広げていくためには、研究方法と研究領域に関する新たな知見と気づきが求められます。そこで、本課題研究では、SSW研究の学際性と係属性についての知見を示し、日米におけるSSW研究の現状と課題について、研究領域と研究方法に焦点を当てて検討していきたいと思ひます。</p> <p>第4分科会東北ブロック運営委員会企画</p> <p>「SSW活動を活性化させていくための地域での取り組み」 コーディネーター：田中尚（岩手県立大学教授）</p> <p><趣旨></p> <p>スクール（学校）ソーシャルワーク活動を地域で展開していくための取り組みについて、具体的な実践事例を通して検討していきたいと思ひます。その地域ならではの工夫や利点、さらには課題や問題点などを整理、検討することを通して、スクール（学校）ソーシャルワーク活動の活性化とは何か、そのための地域に求められる要件は何かなどについて認識を深めていきたいと思ひています。特に、スクールソーシャルワ</p>

2. 大会案内

①参加区分と費用

	会 員	非会員	学生/大学院生*	教育関係者**	
事前研修	1,000円（公開・専門どちらも先着順）				
本大会	事前申込	3,000円	4,000円	1,000円	3,000円
	当日申込	4,000円	5,000円	2,000円	5,000円
情報交換会	5,000円（事前申込のみ）				

- *…社会人院生は除く
- **…対象：保育所保育士、幼稚園教諭、小中高大（特別支援学校や専門学校等含）教職員、教育委員会関係者、学童指導員、適応指導教室・フリースクール等の学習支援スタッフなど（すべて現職に限る）

②参加費等支払方法

【ゆうちょ銀行からの振込を利用する場合】

名義日本学校ソーシャルワーク学会全国大会
記号・番号17400-93866021

【他金融機関からの振込を利用する場合】

カナニホンガッコウソーシャルワークガクカイゼンコクタイカイ
店名七四八（ナナヨンハチ）店（748）
預金種目普通 口座番号9386602

Check!!*****

振込は入金内容（事前研修費・本大会参加費・情報交換会費）をお間違えのないようご確認の上、一括して上記の口座番号へ振り込んでください。（振込用紙は使用できません）

（例：「会員」が「事前申込」で「すべて」に参加の場合…1,000円+3,000円+5,000円=9,000円）

③申し込み方法

<事前申込の場合>

①専用の事前申込フォームに必要事項を書き込み、送信する。

* <http://form.os7.biz/f/8e8c7f61/>または右記のQRコードより専用フォームへ。

【5月1日（日）00：00～7月10日（日）24：00】までにお申し込みください。
申込直後に送信される【仮受付メール】によって申込内容を確認してください。

②参加費等を振り込む

入金内容・口座番号をお確かめの上、下記の振込口座へ【7月15日（金）15：00】までにお振込みください。

③【事前申し込み完了メール】を受信する

大会事務局での事前申込及び振込の確認ができ次第、順次ご登録メールアドレスへ【事前申込完了メール】を送信いたします。必ずご確認ください。

>>>> 事前申込受付完了<<<<<

注1：振込後2週間経っても【事前申込完了メール】が受け取れない場合は、お手数ですが大会事務局までお問い合わせください。

注2：振込いただいた費用は、いかなる場合も返金いたしかねますのでご了承ください。

注3：事前申込/振込が確認できない場合には、当日申込の扱いとなりますのでご注意ください。

注4：ご自身にインターネット環境がなく事前申込が困難な場合には、別紙「FAXによる事前申込」によりお申し込みください。

<当日申込の場合>

受付にて申込手続きをし、上記の該当参加区分の参加費をお支払いください。

なお、当日申込での情報交換会は参加できませんので、ご了承ください。

④情報交換会について

会場は八王子市内の「中華料理海苑」となります。

メリット1：参加される方に限り、大会終了後に法政大学多摩キャンパスから会場までと、情報交換会終了後に会場からJR八王子駅及び京王八王子駅までの送迎バスをご利用いただけます。（参加者のうち、バスを利用しない場合には、必ず事前にご連絡ください）

メリット2：遠方からのご参加の方々にもごゆっくり全国の仲間と交流できますよう、着席にてお食事を楽しんでいただけます。

※情報交換会は、事前申込のみ受け付けます。定員になり次第、申込を締め切らせていただきますので、皆様、お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。

⑤宿泊の手配について

大会事務局での宿泊の手配は行っておりません。各自でご用意いただきますようお願いいたします。なお、周辺の宿泊施設は予約がとりづらい状況になっております。余裕をもってご予約されることをお勧めします。

⑥託児について

託児所は設けておりませんので、ご了承ください。

⑦駐車場について

原則、大学構内へのお車での乗り入れはご遠慮いただいております。後述の交通アクセスを参照の上、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

ただし、おからだの不自由な方には、事前に申し出ていただいた方に限り、駐車場のご案内をいたします。大会事務局までご一報ください。

（事前申込のコメント欄にてお知らせいただいても構いません）

3. 口頭発表応募方法・留意事項

口頭発表（研究発表・実践発表）の申し込みを希望する会員は、下記応募要領をご参照の上、不備のないように、6月10日（金）必着でご応募ください。

●●●●●● 応募要領 ●●●●●●

(1) 発表者の応募資格

- 1) 応募の時点で本学会の会員（2016年度までの学会費納入者）の資格を有する者。
- 2) 共同発表の場合は、応募の時点で1名でも1)に該当しない場合は、申し込みを受理することはできません。
- 3) 発表応募者（共同発表者を含む）は、事前申込及び大会参加費の振込を完了してください。

※1)から3)の条件を充たさない場合は、大会直前であっても発表を取り消すことがあります。

(2) 発表の応募方

- 1) 事前申し込みの際、口頭発表応募希望の欄の【あり】を選択してください。
- 2) 【事前申込完了メール】を受け取っていることを確認して下さい。
- 3) 大会事務局に、件名に「2016ssw口頭発表申込」と書き、本文に①氏名、②所属、③連絡先（住所及び連絡可能な電話番号）、④希望する発表形態（研究発表／実践発表）【下記（3）の3）参照】、⑤題目、⑥パソコン使用の有無、⑦共同発表者氏名（単独の場合は不要）を明記し、発表原稿（要旨）を添付の上、メールにて応募してください。

(3) 発表原稿（要旨）作成上の留意事項

- 1) 口頭発表は、1会員1演題に限りです。そのため、応募については必ず筆頭発表者が行うようにしてください。
- 2) 同一テーマによる発表は、「その（1）」「その（2）」までとします。ただし、内容が別の研究と認められる場合に限りです。また、当日の発表においても、各々が独立した発表として行うため、時間を連続して発表を続けることはできません。
- 3) 口頭発表の形態は、自らの研究の成果を発表する「研究発表」と、自らの実践内容を発表する「実践発表」の2種類とします。発表応募者は、発表の種類を選択したうえで発表原稿を作成してください。
- 4) 要旨は学術的文献として公表されます。内容を十分に吟味したうえで、研究発表については、原則として、研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察、結論等の各項に分けて記述してください。この形式で作成されていない発表原稿については、発表を認めない場合もあります。
- 5) 口頭発表の可否は、理事会の審査で決定し、審査結果については7月末頃までに大会事務局より各応募者へご連絡いたします。その際、要旨の内容により、発表の種類を変更してもらう場合もあります。
- 6) 研究倫理上の問題がある発表や個人の著作販売を目的とする発表等は、発表後であってもそれを取り消す場合があります。
- 7) 口頭発表が決定した後、急なキャンセル等をされないように留意してください。

(4) 発表原稿（要旨）の作成要

- 1) 原稿用紙

要旨は、A 4版2ページで作成してください。字数は目安として、Word・MSワードにて本文3,358字（23字×146行）となります。PDFファイルは受理できませんのでご注意ください。本文とは別に、文頭6行を題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを挿入してください。具体的な記載例は、後記の「発表原稿の書式」を参考にしてください。なお、連名発表者がいる場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付けてください。また、本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載してください。

2) 図・表

図と表は最小限に止め、写真は使用しないでください。

3) 事例

事例等の記述については、プライバシー保護の観点から、関係者からの承諾等の基本的な倫理規定を遵守してください。なお、要旨には倫理的配慮の内容を明記してください、記載内容が不十分な場合や記述がない場合は、発表が採択されないことがあります。

(5) その他留意事項

- 1) パソコンを使用する場合には、原則として大会事務局で用意したパソコンを使用いただきます。
- 2) 発表原稿の要旨の他に追加資料がある方は、各自にて60部ご用意ください。会場での印刷は一切ご対応致しかねます。予めご了承ください。
- 3) 発表用のデータは各自のUSBにて当日ご持参ください。8月28日（日）9:00～9:20を発表者の準備時間といたしますので、パソコンの操作確認等も含めて、事前にご準備ください。
- 4) 一演題の発表時間は、【発表時間20分質疑応答15分計35分】を予定しております。

4. 会場アクセス

主なターミナルからの交通アクセス

各バスで「法政大学」下車
交通アクセスマップ

大会事務局

ご質問やご不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

〒194-0298東京都町田市相原町4342
法政大学現代福祉学部実習指導室（担当：宮地）
FA X042-783-2801
E-mail 2016jsssw@gmail.com

NEWS TOPIC

※全国の地区活動を中心にお伝えします

日本学校ソーシャルワーク学会研修委員会主催 中国地区研修会

『スクールソーシャルワーカーへの期待に応える』研修受講報告
福島史子会員（鳥取県社会福祉士会子ども家庭支援委員会委員長）

山陰にも暖かい春の訪れを感じさせるような3月5日、研修委員会主催の中国地区研修会が米子駅前のコンベンションセンターで開催されました。土曜日にもかかわらずSSW事業を主幹する県教委（鳥取・島根）から2名、小学校校長1名、鳥取県立高等学校SSWコーディネーター教諭1名、鳥取県LD等専門員1名、現任SSWer11名、SC1名、鳥取県育成研修受講者などのSSW研修中の社会福祉士会会員（鳥取・島根）6名、合計23名が参加し、4時間に及ぶ3人の講師の方の講義を受講しました。

第一部の京都社会福祉士会理事である長澤哲也氏の京都における人材養成の状況についての報告には、発表後参加者より質問が集中し、SVの佐々木千里理事からも説明をいただきました。人材確保の難しさ、SSWer養成の課題、28年度よりSV制度が新設される鳥取の懸案でもある効果的なSVの実施について、どの県でもこれから向かい合うだろう課題について、取組の方法を教委・SSWer同席のもと共有することができた有意義な講義でした。

第二部の大塚美和子理事のスキルアップ研修は、3月の引継ぎ時期にふさわしい「小中連携事例からアセスメントとプランニングを学ぶ」というテーマのワークショップでした。エコマップをもとにアセスメントを行いケースのキーパーソンや相関関係を議論する中で、問題点に目が行きがちで介入の手立てばかりを議論しがちなケース会議において、家族や子ども自身のリソースを探す視点があると、家族の辛さや子どもの願いが見えてくる、と気づくことができる研修でした。

第三部では、開催地からのリクエストで佐々木千里理事に教員コーディネーター養成の取り組みについて講義いただきました。鳥取県では28年度、高等学校に5名、養護学校に3名のSSWerが増員配置されること、市町村教育委員会がSSWerの増員を計画しており、SSWerが機能していくためには学校の中にSSWの視点や考え方を持つ先生方が増えることが望ましいとの声があがったことを受けての研修でした。

SSWerが学校の機能を理解することが重要だと気付いた、学校でこそできる支援の可能性を先生方と語り合いたい、明日すぐにも取り組みたい、手応えのある濃い研修だった、来年もぜひ、との声があがりました。鳥取県で開催していただきありがとうございました。

関東甲信越地区研修会

「スクールソーシャルワーカー活用事業の展望と課題～教育委員会との協働を目指して～」
および「スクールソーシャルワーカー初任者研修」開催報告
横井葉子会員（関東・甲信越ブロック運営委員）

3月19日(土)・20日(日)の2日間、電気通信大学を会場に標記の研修を開催しました。

19日の午前には「スクールソーシャルワーカー活用事業の展望と課題～教育委員会との協働～」と題して中野澄氏（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官）による基調講演、午後は「教育委員会による取り組みを通して考える」をテーマに中野氏、湊岳美氏（相模原市SSWer）、瀬戸本むつみ氏（昭島市SSWer）によるシンポジウムを行いました。中野氏からはSSWer活用のためには指導主事が事業のグランド・デザインを考え、システムを作ることが重要であることを学び、湊氏、瀬戸本氏の報告からはそれぞれの自治体に応じた事業の歩みや仕組みがあることを理解しました。関東全域からSSWer、指導主事等の教育行政関係者、議員、学生など72名が参加しました。

20日は「スクールソーシャルワーカー初任者研修」を開催しました。午前には新藤こずえ氏（立正大学講師）による講義「実践に生かそう！SSWerはじめの一步、二歩」、午後には大石孝二氏（立教大学教授）による講義「転ばぬ先の杖！学校コンサルテーションの心得」、最後に参加者の交流を目的としたグループワークを行いました。SSWer（初任者多数）、SSWer志望者、学生、教育行政関係者など46名が参加しました。講師の方々、参加者の方々、大変ありがとうございました。

2日間を通して参加されたスクールソーシャルワーカーの石田優子氏が初任者研修について感想を寄せてくださいましたので、ここにご紹介いたします。

スクールソーシャルワーカー初任者研修」に参加して
石田優子氏（八王子市スクールソーシャルワーカー）

SSWerとして1年目の私は、知識・技量・経験不足はもちろん、自分自身の課題に気づいてもなかなか修正が出来ないなど多くの課題を抱えています。SSWerになってちょうど1年が経過する時期に、「基礎をもう一度振り返りたい」と思い今回参加させて頂きました。

現在私自身が抱えている課題の中には、つなぐ支援がいつのまにか直接支援中心になっていたり、関係機関につないでもすぐに体制が崩れてしまう調整不足など、正に初任者が陥りやすい特徴的な問題がたくさんあります。本研修は「SSWer」として自己紹介したときに自分自身がどういう職種で何をしてくれる人なのかを説明出来るかなど、基礎的な項目を一つ一つ確認して自分に足りていない部分を改めて整理する貴重な体験となりました。

「コンサルテーション」についての研修では、「学校現場において、この先生が得意としているのは何か」を1回の面談の中で把握し、最終的にそのことについて先生方ご自身が「気づき、行動に移せること」がポイントとして挙げられていました。初任者は間接支援の技術が未熟なため直接支援になりがちです。特に私のように間接支援を実践するにも先生方の「気づき」のきっかけとなる根拠を見つける力が乏しい場合には、「課題のポイントがどこにあり、相手のニーズが何なのかを見極め、分析していく」のが大切で、多角的に物事をとらえる視点の必要性を強く感じました。先生方の問題意識の明確化、対象の児童生徒や学校環境などの情報、コンサルテーションを受ける側の教育観の理解など多岐に渡る内容を分析するため、初任者にとって非常にハードルが高く高度な技術だと思いました。これからの自分自身の業務に大きく関わる内容なので、経験を重ねしっかりと押さえていきたいと思えます。

最後に、今後研修や実践を重ね専門性の向上に努めると同時に、効果的な手法や技術の仕方を習得して行きたいと考えています。そして間接支援の技術の幅を広げ、一人でも多くの児童生徒や学校の先生方の力になりたいです。

日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会 第8回研究大会

森 真司会員（福岡県スクールソーシャルワーカー協会運営委員）

平成28年3月21日、久留米大学福岡サテライトにて九州沖縄部会第8回研究大会が開催され、「スーパービジョンの実用化と学校ソーシャルワーク」という大会テーマのもと、基調講演とシンポジウムが行われました。基調講演は、久留米大学の門田光司教授より、「スーパービジョンの国内外における動向と今後の展開」ということで、過去5年間に門田教授が実施したスーパービジョン（以下、SV）プログラム研究の報告がなされました。福岡市において3年目以上の経験を有するスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）を対象に、日本のSSWに期待されるソーシャルワークサービスの内容を調査し、SSWが児童生徒、家族、学校・地域を対象に実践しているソーシャルワークサービスの中で共通しているものが挙げられました。それらの項目で経験年数の違い（初年度のSSWと3年目以上のSSW）により提供されるサービスが異なっていることが示された後、SSWが3年の経験年数を迎えるまでに、ある一定のサービスが提供できるようになることを目標にすること、そのためのSVプログラムを開発していくことが求められるということが分かりました。次年度は福岡県下でSSWは130名体制、スーパーバイザーも6つの教育事務所10名体制が取られ、今後も増えていくことが考えられるため、スーパーバイザー養成も必要不可欠であるということが理解できました。

シンポジウムでは「スクールソーシャルワーカーが求めるスーパービジョンについて考える」というテーマのもと、福岡市教育委員会チーフSSWの蒲池恵氏、熊本市教育委員会チーフSSWの古閑智子氏がシンポジストとして登壇され、それぞれの自治体でのチーフSSWの活動について報告や質疑応答が行われました。福岡市と熊本市ではSSWの配置形態が異なっていますが、現場に出るSSWの状況把握を行い、それをもとに教育委員会への交渉やスーパーバイザーとの相談等を行っている動きなどにおいて共通していることが分かりました。いずれの自治体においても、配置形態や所属するSSWの実情を踏まえて現在のような体制を取っていますが、現状が完成形ではなく変化に対して柔軟に対応していくため、いつも現状の振り返りをしながら先のことを見据えていると感じることができ、SSWとしてはやはり変化に対して柔軟に対応していくことが必要であることを実感する貴重な機会となりました。

事務局だより

1. 理事会報告

下記の日程で理事会が開催されました。

1) 2015年度第3回理事会

日 時 2015年12月26日(土) 11時00分～15時15分
場 所 大阪市市民交流センターひがしよどがわ集会室202
出席者 9名(欠席者4名)
議 題 ①学会ホームページの管理およびコンテンツの充実
②地区世話人制の見直し
③第11回全国大会
④各委員会
⑤入会審査 他

2) 2015年度第4回理事会(常任理事会)

日 時 2016年3月28日(月) 13時00分～17時00分
場 所 法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー
出席者 5名(欠席者1名)
議 題 ①第11回全国大会
②地区ブロック制移行
③2016年度予算
④プライバシーポリシーの検討
⑤学会リーフレットのリニューアル
⑥各委員会
⑦入会審査 他

※次回、2016年度第1回理事会…2016年5月29日(日) 東京にて開催予定

2. 会員報告

1) 会員数

423名(2016年3月28日現在)

※当学会への新規入会希望者を対象に行う入会審査は原則として理事会にて行います。理事会は年3回程度の実施を予定しています。入会手続の手順については、http://www.jsssw.jp/modules/page_10/index.php/index.html (学会HP) をご確認ください。

3. 会員情報に関する変更手続き

学会ホームページより「記載事項変更届」がダウンロードできるようになりました。所属先や住所等に変更がある方は、「記載事項変更届」に必要事項をご記入のうえ、学会事務局に郵送またはFAXをしていただくか、変更内容に関する情報をメールにてお知らせください。

4. 『学校ソーシャルワーク研究 第12号』 投稿募集のご案内

現在、編集委員会では『学校ソーシャルワーク研究第12号』への投稿を募集しています。応募の締切は2016年9月30日(金)です。

投稿規程および執筆要領は学会ホームページ(http://www.jsssw.jp/modules/page_06/index.php/index.html)よりご確認ください。会員の皆様からたくさんのお投稿をお待ちしています!!

5. 学会メーリングリストのご案内

当学会では、これまで希望する会員を対象にメーリングリスト(以下、ML)を用いた情報配信サービスを提供してきました。しかし、2014年5月にYahoo!グループのサービスが終了することに伴い、理事会ではMLを廃止して新たに事務局配信メールマガジンを新設することになりました。メールマガジンでは、主に①事務局だより(学会活動に関する諸連絡および情報提供等)、②会員掲示板(各地域で行われる研修や行事等に関する諸連絡および情報提供等)を配信していきます。なお、このメールマガジンは希望者対象のサービスであるため、配信を希望する会員は事前に登録していただく必要があります。登録方法については、下記をご参照ください。メールマガジンは不定期ですが、月1回程度の配信を考えています。

1) メールマガジン配信希望者

メールマガジン配信希望者は、学会事務局アドレス(k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp)に登録希望メールを送信してください。送信していただくメールには、件名に「学会メールマガジン配信希望」と記していただき、本文では必ず氏名を入力してください。学会事務局でメール受信ならびに諸手続が終わりましたら、登録完了のメールを学会事務局より送らせていただきます。

2) メールマガジンへの情報掲載希望者

これまでMLにて会員の皆さまから発信していただいた種々の活動に関する情報提供や告知等は、引き続き会員相互で共有していきたいと考えております。今後は学会事務局がそれらの情報を一度集約したうえで、メールマガジンで配信するとともに、学会ホームページ上においても地区ニュース欄等で情報を掲載していきたいと考えております。メールマガジン及び学会ホームページでの情報配信を希望される方は、学会事務局のアドレス(k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp)までメールを送信してください。

①件名には「学会メールマガジン情報掲載依頼」と記してください。

②本文の最後には情報発信者の氏名と所属を記してください。

③学会ホームページへの情報掲載希望の有無について記してください。

なお、掲載情報については、必要に応じて文章を加筆修正することがありますので予めご了承ください。
また、学会ホームページへの情報掲載については、数日の時間を要する場合もあるため、急を要する依頼にはお応えできないことをご理解いただいたうえで、ご対応をよろしくお願いいたします。

日本学校ソーシャルワーク学会事務局

発行責任者：奥村賢一（日本学校ソーシャルワーク学会事務局長）

〒825-8585福岡県田川市大字伊田4395番地

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科奥村賢一研究室気付

TEL・FAX0947-42-1426E-mailk.okumura@fukuoka-pu.ac.jp

ホームページ<https://jsssw.com>